

令和7年5月 急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランス

宇都宮市のARIサーベイランスについて

本市では、市内12か所の定点医療機関からARIと診断された患者の数を毎週、御報告いただいています。これによって、宇都宮市におけるARIの流行状況を把握することができます。

また、患者数の報告を行う定点医療機関の中で、病原体分離のために検体採取を行う医療機関（病原体定点）が、市内に2か所定められており、採取した検体は宇都宮市衛生環境試験所にて、以下の呼吸器ウイルスの遺伝子検査を行っています。

検査対象病原体：インフルエンザウイルスA/B、新型コロナウイルス、
RSウイルスA/B、ヒトパラインフルエンザウイルス1~4、
ヒトメタニューモウイルス、
ライノウイルス/エンテロウイルス、
アデノウイルス

患者発生状況

【定点当たり報告数（図1）】

- ・宇都宮市における5月期の最終週（第22週）の定点あたり報告数は63.00（報告数756例）で、第21週の定点あたり報告数55.83（報告数670例）から増加しました。
- ・栃木県（宇都宮市を含む）における第22週の定点当たり報告数は81.72（前週86.87）で、全国平均は定点あたり58.63（前週57.29）となっており、栃木県は第20週より減少傾向、全国は第20週より横ばいとなっています。

【患者の年齢構成（図2）】

- ・5月期の最終週（第22週）の患者の年齢階級別割合で最も多かったのは1-4歳の39.7%、次いで5-9歳の19.1%、10-14歳の10.0%、0歳の7.0%であり、15歳未満の子どもが患者全体の75.9%を占めていました。

病原体検出状況

【病原体検出状況】（図3，表1）

5月期の最終週（第22週）で最も多く検出されたのは、ヒトパラインフルエンザウイルス，ライノまたはエンテロウイルスの3件で，これらのウイルスが前週と同様に多く検出されました。

また，5月期（第18-22週）は，40検体が採取され，陽性症例数は28件で陽性率は70.0%でした。検出された病原体の内訳を見ると，ヒトパラインフルエンザウイルスが最も多い13件で，次にライノウイルスまたはエンテロウイルスが12件，インフルエンザウイルスB型，新型コロナウイルス，RSウイルス及びアデノウイルスが2件と続いています。

【年齢別病原体検出状況】（図4）

5月期（第18-22週）に採取された40検体の内訳を見ると，1-4歳が最も多い15検体で次に10歳代が7件，5-9歳が4検体と続いています。最も多く検出された病原体は，ヒトパラインフルエンザウイルスの13件，次いでライノウイルスまたはエンテロウイルスの12件で，特に1-4歳で多く検出されています。

図3：病原体検出状況（週別）

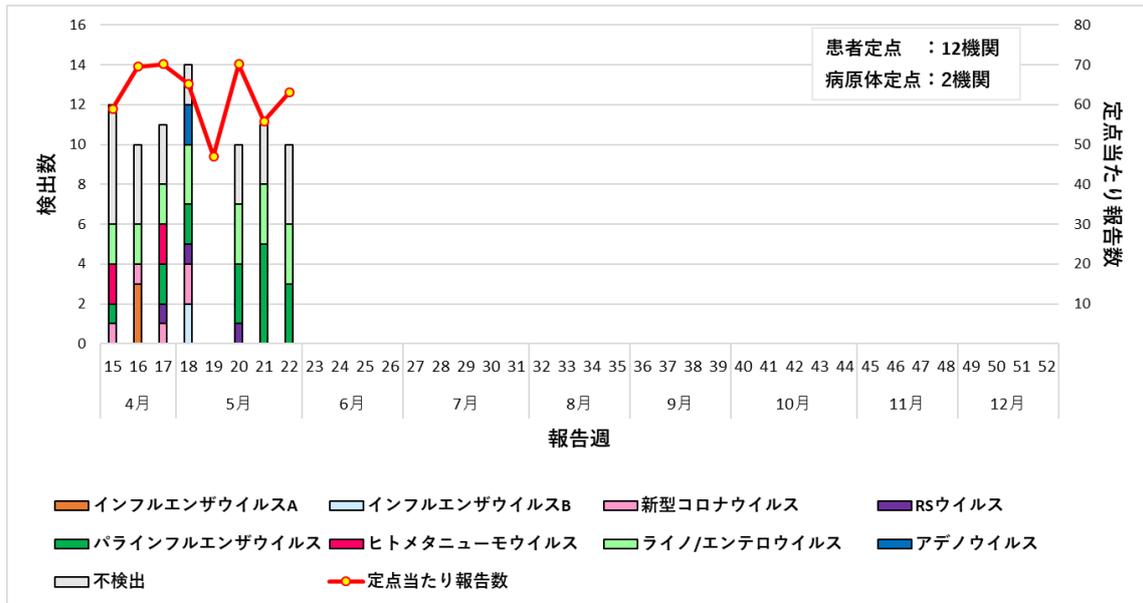
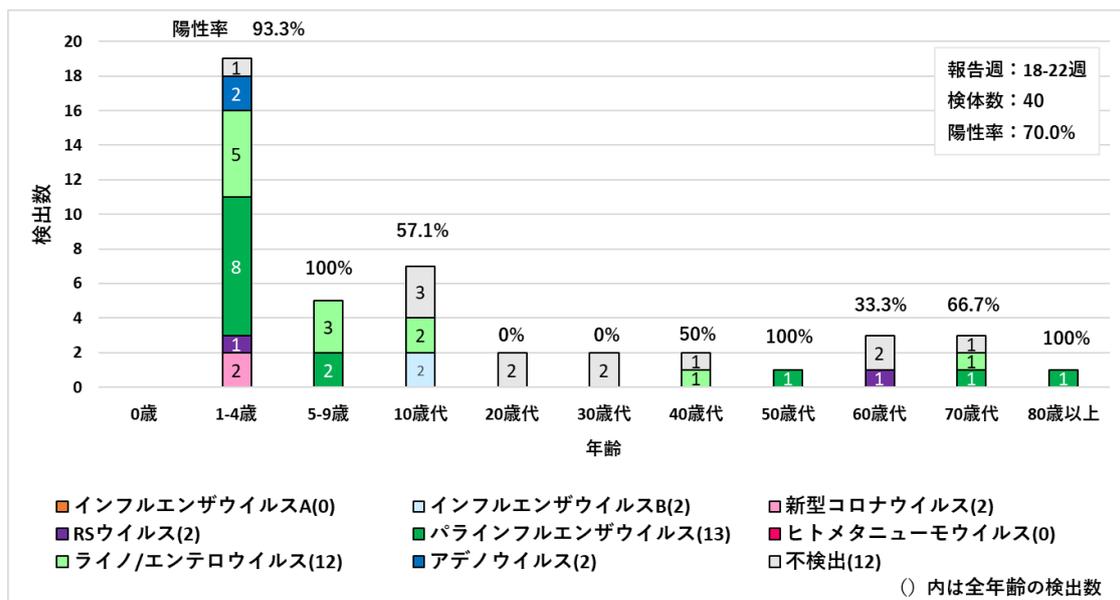


表 1 : 病原体検出状況 (月別)

	4月	5月
	15-17週	18-22週
検体数	31	40
不検出数	13	12
陽性率	58.1%	70.0%
インフルエンザウイルスA	3	0
A/H1pdm09	0	0
A/H3	3	0
インフルエンザウイルスB	0	2
B/山形系統	0	2
新型コロナウイルス	3	2
RSウイルス	1	2
A型	1	1
B型	0	1
ヒトパラインフルエンザウイルス	3	13
1型	1	0
2型	0	0
3型	2	12
4型	0	1
ヒトメタニューモウイルス	4	0
ライノ/エンテロウイルス	6	12
アデノウイルス	0	2
検出数合計 (同一検体からの複数検出含む)	24	50

図 4 : 年齢別 ARI 病原体検出状況 (5 月期)



※ 1つの検体から複数の病原体が検出される場合もあります